

団員の感想

「絆」

中国に行くのは二度目でした。父が蘇州に単身赴任をしているので、上海と蘇州に行ったことがあります。その時感じたことは、思っていたよりも中国が良いところだったということです。それから中国が好きになり、中国語や歴史に興味を持ちはじめました。そんな時、この「東日本高校生訪中代表団」に参加することが決まりました。私は中国に行き、積極的に話しかけるという目標を立てました。

西安中学校と西安交通大学附属中学での交流で、それが少し達成できました。女の子と話した時に、日本が好きだと言ってくれました。最後にアメをあげたら「ありがとう」と言ってくれてとても嬉しかったです。「ありがとう」の一言がどれだけ嬉しかったか、言葉では伝えきれません。スポーツが心を通わせてくれることも分かりましたし、これからの人生で「ありがとう」の気持ちを大切にしていこうと改めて思いました。

西安のスーパーに買い物に行った時には、男性が車から降りて話しかけてくれて、なんとか中国語で話すことができました。笑顔でいれば心は通じ合えることが分かり、思い出の一つとなりました。

北京で1号車のガイドをしてくださった李さんとは、大学や将来のことを話しました。中国では一年に一つの大学しか受けられないから、みんな必死で勉強していることを聞き、私も頑張ろうと思いました。空港で別れる時に「夢は必ず叶います」と言ってくれて勇気が出ました。この言葉は一生忘れません。

西安でガイドをしてくださった李さんともたくさん交流ができました。日本に来た時には会う約束をしたので楽しみです。とても優しい方で、日本が好きで中国人は良い人ばかりだなと再確認できました。

積極的に話しかけることができ、より中国を好きになりました。たくさんの人との交流が私を大きく成長させてくれたと感じています。そのサポートをしてくださった1号車の通訳さん、日中友好会館の皆さん、外務省の遠山さん、日立二高の増子校長先生と中野先生には本当に感謝しています。良い経験ができ、この9日間は私の宝物になりました。

(茨城県3年女子)

「日中のキズナプロジェクトに参加して」

今回のキズナ強化プロジェクト参加により、中国の印象がものすごく良いものになりました。

日本にいる時はあまり良いイメージを持っていませんでした。それは、日本のマスメディアが中国の反日デモなど、反中をあおるようなニュースを報道して、中国の良いニュースをあまり報道しないからです。

しかし、実際に行き接してみると、人の優しさや親切さに触れることができました。特にスポーツ交流でサッカーの試合を終えた後に握手したこと、肩を組んで写真を撮ったことは

今でも忘れられません。

日本の文化の原点は中国にあり、その中国の文化の原点や歴史を見学でき、とても良い勉強になりました。苦勞して上った万里の長城から見た景色は今でも鮮明に覚えています。文化や歴史を見て、こんなにも日本と中国が繋がっていることを初めて知りました。

また、中国の日常生活にも興味があったので、ターンテーブルや水餃子などの食事の方面から、トイレのシステム、車のナンバープレートの色分けまで、さまざまな事情を知ることができたのもとても良い勉強になりました。

日本が中国から借りているパンダを近くで見るとは初めての体験で、このかわいさなら、毎年借りるはずだと思いました。

これらのことより、このキズナ強化プロジェクトでいろいろなことを学ぶことができました。それは、先入観で物事を判断してはいけないこと、信じるものはテレビなどの報道ではなく、自分の目で見たものということ、例え価値観や文化、言語が違っても分かり合うことができるということでした。

私は短い間しか中国にいらなかったのですが、そこで見た素晴らしいものや、日本と中国に「キズナ」があることを信じています。

この貴重な体験を友人に話すことで、少しでも日中友好に貢献できればと思います。
(茨城県2年男子)

「東日本高校生訪中代表団に参加して」

僕がこの企画に参加しようと思ったきっかけは、この企画以外に中国に行けるチャンスが少ないと思ったからです。

中国に行くことが決まってからは、中国に行くことができる楽しみと不安とが混じり合っていました。しかし、実際に行ってみると意外と普通に過ごせたのではないかと思います。ただ、中国で一番辛かったことと言えば、こちらの言語が通じなかったことです。

見学したところでは、北京の万里の長城が印象的でした。万里の長城は上るところが急だったのですごく疲れしました。

西安では二度の学校交流や兵馬俑博物館見学が印象的でした。

まず、最初の学校交流では西安中学に行きました。ここでは中国の高校生とスポーツを通して交流を深めました。2回目は、西安交通大学附属中学というところです。この学校との交流では、紙でバラの花を作りました。中国の高校生が優しく指導してくれたのが嬉しかったです。この二度の学校交流で中国人の印象が良くなりました。

次に、兵馬俑博物館での感想です。見学する時は人が多くて大変でしたが、近くで兵馬俑を見ることができて良かったです。僕の亡くなった祖父が、昔、東京の博物館に兵馬俑の展示を見に行った話を母に聞きました。祖父が生きていたら、本場の兵馬俑を見たかったのではないかと思います。実際に見る機会は少ないと思うので、良いものを見られたと思います。

また、中国では食べ物のことも心配でした。自分は辛い物が苦手なのもありましたが、何年前か前、中国の食べ物での問題があったことです。しかし、今回は問題がなかったのが良かったです。

今住んでいるところと比べると人が多くて大変でしたが、町の様子は想像していたより綺麗で素敵なところでした。

僕は歴史が好きなので、これをきっかけに中国の歴史をもっと深く勉強したいと思います。さらに、中国だけではなく、これをきっかけに他の国の歴史の勉強をしたいと思います。

今回中国に行ったことは、一生忘れない思い出になると思います。この旅で、中国について新しく知ったこと、勉強したことをこれからの生活で生かしていきたいです。

(茨城県1年男子)

「中国訪問を終えて」

私は、今回の東日本高校生訪中代表団で初めて中国へ行きました。行く前の中国の印象は、あまり良いイメージがなく、少し怖いイメージや不安な気持ちがありました。しかし、実際に行くと自分の思っていたイメージは全くなく、中国や中国人の優しさや親切さを感じました。

2日目に万里の長城を生で見て、この建物を人間が作り出したすごさと中国の歴史の長さを知りました。当時、作った人々がどのような思いで建てたのか、詳しく知りたくなりました。

学校交流では、少しの英語でも会話することができました。私は習字を体験したのですが、交流した学生はしっかりと楷書で書いていて、日本が中国の文化に倣っていることがはっきりと分かりました。そして、少しの会話ですぐに仲良くなれることに驚きました。

5日目の唐の時代の歌舞劇の鑑賞では、日本では見たことのない楽器や踊りに感動しました。私は音楽にとっても興味があるのですが、唐の時代の曲調や旋律が心に残り、気に入りました。例えば、打楽器一つだけで奏でられる音楽は珍しく、しかも表情で音楽を引っ張っていました。それは、日本にも伝えたいと思いました。そして、唐の時代の音楽以外にもさまざまな時代の音楽について知りたいです。

日本と比べて中国は人口が多く、人より車が優先でした。その他の違いはあまりなく、街並みは日本の東京と変わらないくらいでした。中国人の生活している様子を見てみると、知らない人に気軽に話しかけたりしていました。日本もそのような国になってほしいと思います。

私は海外に行くのも、飛行機に乗るのもすべてが初めての経験でした。中国は、私や周囲の人々が思っている印象は全然ありませんでした。日本人の中には、中国を少し悪く言う人もいますが、それはただの勝手な思い込みやイメージであることが分かりました。もう少し互いの国について知るべきだと思います。この訪中団を経験し、もっと中国の歴史や文化、習慣などについて詳しく調べたいと思いました。そして、学んだ海外の文化を周囲の友達や家族に伝えていきたいです。

(青森県2年女子)

「私の目にした中国」

4000年の悠久の歴史を持つ広大な国、中国。その裏側には一体人々のどのような生活があるのか。日本と中国との相違点はいかなるものだろう。中国が世界に及ぼす影響力とは。ふつふつと浮かび上がった疑問を検証すべく、自分の目で中国という国を見てきたいと思ったのが、今回の旅の始まりだった。

訪中前は内心不安でいっぱいであった。中国という言葉から、あまり良いイメージを抱けなかったからだ。環境破壊や水質汚濁、大気汚染など、どうしてもマイナスなイメージが固定化され、良いイメージを持つことができなかった。

不安と期待を胸に北京空港に降り立った私は、初めて中国を見た。どこまでも続く広い世界に、止めどなく絶えない車やバイク。生い茂る自然の中にそびえ立つ高層ビル。車のクラクションやエンジン音が交差して作られる不協和音。ブランド店や出店に一目置かれて肩を並べる伝統的な風貌漂う立派な建造物。同じ時を共有し、雑踏の真ん中を堂々と歩く人々。これが、中国一。それは、とてもみずみずしく、ひどく鮮明だった。同時に、密かにこれまで抱いていた悪いイメージが、少しずつ薄くなっていくようだった。1日目・2日目と、1日が経つにつれ、疑問の核心に徐々に迫っていく。ゆっくりと、そして確実に悪いイメージがはがれ落ち、今まで気付かなかった中国についての良いイメージが確立されていった。

また、疑問の一つであった中国の人々の生活について、直に知ることができた。実際に100年前前から暮らしているという家族を訪れ、伝統的な家の間取りや内部の構造、代々営んでいるという仕事について、日本との違いや共通点を探し、中国の暮らしについて多くの知識を学ぶこともできた。

北京で買い物をしたスーパーでは、日本と中国との強い結び付きを知ることになった。中国であっても、有名なメーカーやなじみの商品まで、所々に陳列されているのが目立った。正直なところ、外交上あまり関係が良くないと思っていたため、とても驚いた。ガイドさんから聞いた話によると、日本は中国と深い関係であるらしく、貿易相手国としては世界で1位だという。非常に興味深い内容だった。

私はこの9日間で多くの人々と巡り合うことができた。交流を通して絆を深めた学生の友達、中国の歴史を事細かく教えてくれたガイドさん、共に現地に赴き、お互いを助け合うことができた他の訪中学生の皆さんなど、さまざまな方と交流できたことを、今とても誇りに思っている。人と人との繋がりとは、本当に「一期一会」のようなものだと、改めて思った。

今後、中国との関係がどうなっていくのか予測不能であるが、今回の経験を生かして、いろいろな人々の助けになることができれば、支えになってあげることができれば幸せだと思う。今回、支えていただいた多くの人がいるということをしっかり胸に刻んで、生活していきたいと思う。

(青森県2年女子)

「中国を振り返って」

今回、東日本高校生訪中代表団の一員として中国を訪問して本当に良かったです。今回の訪問でたくさんのことを学ぶことができました。まず、僕がこの訪問に行くことを決意したきっかけは担任の先生の勧めでした。それまではアメリカばかり旅行していたので、中国は興味がありませんでした。しかし、担任の先生から「少し違う国に行ってみてはどうか」と勧められ、夏休み期間で夏期講習がある大事な時期の中、訪問を決意しました。中国に行くまでは中国にあまり良い印象はありませんでした。

そんな中、とうとう中国に出発しました。北京空港に着き最初に感じたのは空港の綺麗さでした。正直汚い印象しかなかったので、そこでの気持ちは今でも覚えています。

ホテルに着き、豪華すぎて言葉を失いました。僕たちのためにあんな豪華なホテルを用意してくれた中国側の人たちに本当に感謝したいです。次の日からは観光の連続でした。万里の長城・天安門広場・兵馬俑・鳥の巣・動物園など数えきれないほどの観光地に行き、充実感に溢れた毎日を過ごすことができました。特に印象に残ったのは、科挙制度博物館の「勵志堂」です。僕は世界史専攻ではないのですが、一年生の頃、世界史で科挙制度について勉強しました。科挙制度とは官僚になりたい人たちが試験を受ける制度で、受験者は部屋分けされ、制限時間は特になく、じっくり解いていいという試験です。資料集で分けられた部屋の写真を見たことがあったのですが、実際に見ると伝わるものがあって感激しました。他にも兵馬俑なども同じように、写真で見るとはまるで違い本当に感動の連続でした。今まで世界の小さな目でしか見ていなかったのが、この訪問で世界が大きく見えたような気がします。

僕は大学に行くことができれば、国際のことをもっと学びたいと思っています。その時は、この訪問のことを踏まえながら研究していきたいです。

今回、中国の訪問に夏期講習を欠席してまで行ったら、絶対後悔すると思っていました。しかし、今は本当に行って良かったと思います。他の人が体験できないたくさんのことを体験することができて絶対プラスになったと思います。さらにたくさん仲間に出会えて、たくさん友達ができ、中国の高校生とも交流ができて本当に良かったです。これを機に他の国にもどんどん視野を広めていきたいです。

ありがとうございました。

(青森県3年男子)

「中国訪問を終えて」

今改めて振り返ってみると、あっという間の9日間でした。中国訪問が決まった際、嬉しい反面、とても不安でした。リストを見た時、同じ学校名が数多く並んでいるのに対し、自分の学校名は一つしか載っておらず、9日間上手くやっつけていけるか、友達はできるか心配でした。しかし、いざ出発すると、すぐに打ち解けることができ安心してともに、これから始まる中国訪問が楽しみになってきました。

驚かされたのが中国のスケールの大きさです。万里の長城や天安門、兵馬俑など、どこの

歴史的遺産を訪れても人が溢れ賑わっていて、世界一の人口なだけあるなど思いました。

最も印象に残っているのは、中国人との交流です。歓迎会や学校交流など交流できる場が設けられており、たくさん交流ができました。日本のアーティストの話をしたり、日本の戦国時代を語り合ったり…とても楽しかったです。しかし、そこで痛感させられたのが勉強量の違いです。中国人が話す英語は流暢で圧倒されました。言葉で通じなくても、身振り手振りや文字で伝わり、なんとかコミュニケーションはとれたけど、自分自身の英語力を鍛えていれば良かったと後悔し、もっと勉強に励まなければいけないと思いました。

今回、東日本高校生訪中代表団のメンバーとして参加できたことを誇りに思っています。訪中前は中国に良いイメージを持っていませんでしたが、それは全くの間違いで、中国人は心が広く優しくかったです。中国語を勉強し話せるようになった上で、また中国に行きたいなと思いました。

貴重な経験ができ、私自身、訪中を通じて成長できた気がします。本当にありがとうございました。

(福島県3年女子)

「東日本高校生訪中代表団に参加して」

東日本大震災の被災者の一人として中国を訪れた時は、緊張と心配でいっぱいでした。その理由は、もともと私の中国の人たちに対するイメージがあまり良くなかったからというのと、上手く中国の人と交流できるか不安だったからです。私の中で、いろいろな勝手な偏見がありました。しかし、いざ中国へ行ってみると、明るい人が多く、優しい印象を持ちました。

また、中国の高校生に中国の伝統の太鼓を教えてもらった際、太鼓の着け方や叩き方などを親身になって教えてもらい、楽しかったです。

その他にも、中国の文化を知るための名所観光、中国の舞踊や歴史などを見学してきました。自分の中で最も印象に残ったのは、3日目の万里の長城・天安門広場の見学でした。万里の長城は思っていたよりも長く、険しい道なりに驚きました。試しに上ってみたのですが、1キロほど上ったところで疲れ、やむなく引き返しました。天安門広場も思っていたよりも長く、広い所でした。入口からかなり歩いた先に、日本でも有名な毛沢東の絵のある門があり、そこをくぐった先もまた広く長い歩道があったのを見た時はまた、驚きました。

その日に見た、万里の長城と天安門広場の建物は、中国に来たらぜひ訪れてほしい場所だと思います。私が9日間の滞在の中で一番中国の歴史・文化を見ることができる名所だと思います。

中国を訪れてみて、自分の中国に対するイメージがかなり変わりました。また、中国の高校生とも交流でき、中国の良さや景色の美しさに感動しました。今回本当に中国へ行って良かったと思います。

(福島県1年男子)

「日中友好研修へ行って」

私は最初、本場の中華料理を食べたいという、そんな気持ちで中国へ行くことを決めました。しかし、今回の研修は日中友好でとても大切なものだというのを聞き、中国出発前に中国への知識を少しでも多くしようと行動しました。

しかし、実際中国へ行って中国への印象が大きく変わりました。特に心に残っていることが二つあります。一つ目は中国の歴史の深さです。世界遺産の万里の長城や兵馬俑など、今まで教科書で見えていたものを実際に自分の足で行けたのが嬉しかったです。また、万里の長城など何千年も前に造られたことや昔の学生の話聞いて中国の歴史に触れ、改めて歴史の深さに感動しました。

二つ目は西安の高校へ訪問させていただいたことです。まず、学校の綺麗さや大きさ、設備などに少しびっくりしました。最初に訪問した学校では日本語が話せる男の子に会い、その方とたくさんお話ししました。日本が好きで日本のアニメなどを見て独学で覚えたと言っていました。二つ目の学校では書道のとても上手な一つ上の方と書道を一緒に書かせていただきました。学校訪問へ行き感じたことは、中国の学生は何か一つ取り柄が必ずと言っていいほどあり、それに対する意識がとても高く、何事にも一生懸命だということです。

今回の日中友好研修は、私にとってとても大きなものになりました。学校訪問では同年代との交流に刺激を受け、中国の歴史や現在発展している状況に触れ、学ぶことがたくさんありました。中国はもちろん、他のいろいろな国にも行きたい、知りたいと思うようになりました。本当に参加して良かったです。また、さまざまな所で歓迎をしてくださった中国側の方にとっても感謝しています。

(福島県2年女子)

「参加して気づいたこと」

今、訪中していた時のことを思い出すと、なんだか長い夢を見ていたような気がします。9日間も家を離れて海外に滞在するという経験は、私にとって初めてのことでしたし、何より、その9日間の出来事があまりにも衝撃的だったからです。見たことのないスケールの大きさだった万里の長城や天安門広場、命懸けの演目を披露してくれた上海雑技団、そして、一番の楽しみであった学校訪問。見る景色は普段通ってきている盛岡の街とは全く異なっていました。しかし、この旅で日本と中国の間にも、共通しているものがあることが分かりました。それは、両国の人々の友好的な感情です。訪中する前、私はテレビや雑誌などの報道から中国の人々がみんな日本人を嫌っているものとばかり思っていました。ですが、本当は違いました。実際に訪中したとき、私たちに対して彼らは友好のため、あるいは商売のために親身になって接してくれました。

また、それらのこととは別に私にとって深く印象に残ったことがあります。それは、他の被災地の学生と直に話をすることができたことです。震災での私の周りの被害というのはライフラインが止まったり、校舎の一部が壊れた程度でした。しかし、話を聞いていると、「友達の家忘れ物を届けに行ったら偶然助かった」とか「学校に残って友達と話をしていて

助かった」という人がほとんどであったということを知りました。

今回の活動を経て、私には二つやりたいことが見つかりました。一つ目は自分が中国で知った多くのことを日本で広めることです。訪中する前の私のように、先入観を持っている人は大勢いると思います。ですが、自分が訪中の率直な感想を伝えることで、そういう人たちが中国という国を少しでも理解してくれたら嬉しいからです。二つ目は、震災で苦しんでいる被災地の方々のような人を助ける仕事に就くことです。自分にできることはまだまだ小さいですが、少しずつ前に向けて頑張っていきたいと思いました。

(岩手県2年男子)

「訪中を経て」

この訪中プロジェクトに参加する前は、中国についてテレビ等で良いニュースをあまり聞かず、友達や学校の先生が中国のことを話す時の態度を見ても、日本人の中国に対する印象は良くないのだと感じていました。しかし、実際に中国へ行き、いろいろな文化に触れたり直接交流をしたりしたことで、中国や中国人に対しての印象が大きく変わったと思います。

訪中の間のほとんどは、歴史的建造物を見たり文化体験をしたり、中国についての知識を深めることが多かったと思います。中国の土地はとても広いため、万里の長城や天安門など、とても壮大な建造物が多かったです。土地も広く歴史も長いので、世界遺産がたくさんあり、その中のほんの一部を見ただけでしたが、中国の歴史に少しでも触れることができ良かったです。

また、中国人高校生と交流をした時は、皆優しく迎え入れてくれました。私は、中国人は皆、日本人が嫌いで冷たいのだと一方的に思っていたのですが、実際は日本の漫画やアニメやAKBが好きな人が多く、とても驚きました。そして、中国の伝統の楽器等を一生懸命に説明してくれて、中国についても知ってもらいたいという思いがあるのだと分かりました。日本人も中国人も文化は違うけど、基本的に「仲良くなりたい」という思いは一緒なのだと感じました。

日本の文化を伝える場で、私は何人かで岩手のさんさ踊りを披露しました。他にも日本舞踊や空手を披露する人がいましたが、日本の文化が少しでも印象に残っていれば良いと思います。

このように、いろいろな経験を通して、中国には素晴らしい歴史があり、日本に興味を持っている人たちがたくさんいることを知りました。現在、中国で反日デモが起こったりしていますが、これから先、日中関係が良くなれば良いと思うし、何かそのためにできることがあればしたいと思います。

(岩手県2年女子)

「印象の変化」

僕は今回の経験によって、中国への印象が大きく変わりました。まず、中国人に対しての印象です。テレビなどを見ていると、中国語の特徴だと思われそうですが強めの口調で話すために、短気や荒々しいというイメージがありました。しかし、実際に現地の高校生とコミュニケーションをとってみると、外国人である僕たちに対して優しく積極的に話しかけてくれたり、趣味や学校生活について教えてくれました。やはり、国は違っても同じ高校生に変わらないのだと思いました。また、ホテルで自分のルームキーが機能しなくなったことがあり、ロビーの受付の人は日本語が通じなかったにもかかわらず、僕のしてほしいことを一生懸命考えてくださり、笑顔で接客してくださりました。もちろん、ホテルマンとしての当然の業務だったとは思いますが、それでも、異国の場所で不安が多かった僕には本当に嬉しいことでした。中国の人は、僕の抱いていたイメージとは全く違って、温かい人ばかりでした。

印象が変わったことは他にもあります。それは文化についてです。僕は上海で顧繡と呼ばれる伝統的な刺繡に挑戦しました。神経と集中力をものすごく使うため、初体験の僕には全くできませんでした。もともと、上海という場所にはビルが立ち並ぶ大都市というイメージしかなく、こういった伝統的なものに触れたことは新鮮でした。日本にも世界に通用する文化はたくさんありますが、中国にもそういった世界から認められるものがあるのだと改めて実感することができました。

僕がこの感想文を書いている現在、日本と中国は決して良いと言える関係ではないように思えます。しかし、僕たちは今回の訪中でたくさんの中国の人と仲良くなれたし、中国の良いところを知るとともに、日本の良いところもしっかりとアピールできたと思います。今後、日本と中国との関係は、僕たちがそうであったように、きっと絆を深めてゆくことができると思います。そのためにもまずは、お互いを尊重し、お互いのことを理解しようとする姿勢が大事なのだと強く思いました。

(岩手県2年男子)

「中国にて学んだこと」

9日間の訪中を終えた今、私は身をもって、物事を経験することの大切さ、素晴らしさを深く実感している。見るもの聞くものがどれも新鮮で大変好奇心が湧いたものだった。生活様式や建造物、食文化など、同じ人間であるのに大きな違いが生まれる不思議さ、そしてその感動をも実感した。

世界遺産である万里の長城でも、想像以上のスケールと佇まいに圧倒され、建造された紀元前7世紀から現在に至るまで、どのような歴史を歩んできたのか想像させられた。まるで過去にタイムスリップしたかのような感覚で、先人たちはどのような状況でこの階段を上ったのか、考えずにはいられなかった。

また、最も心待ちにしていた学校交流。しかし、最も不安なことでもあった。何故なら、中国の人々には歴史的背景から反日的な人もいるとよく聞くからである。もし、誰一人として中国の友人ができなかったらと不安に思っていた。しかし、彭浦中学に到着してすぐに、

その不安は消え去った。皆が温かく迎えてくれ、たくさんの言葉をかけてくれたのだった。日本の学校のことやアニメのことなど、思い出しきれぬほどにたくさんのお話をした。母国語ではない言語で会話するのは容易なことではなかったが、互いに尊重し合うことによって、伝えたい気持ちは伝わるのだと改めて知った。日本へ帰国した後も連絡を取り合っている。他国に友人がいることは良い意見交換の場であり、また、全く別の視点から物事を考えることができるようになる。これからも互いに意識を高め合い、支え合いながら良い関係を築いていきたいと思う。

日本と中国とは経済などにおいて密接にかかわり合っていることは言うまでもなく、これからは世界の中で重要な役割を担っていくだろう。

最後に、今回の訪中で学んだことは、ここに記した以外にも数えきれないほどにある。経験したすべてのことは、私を成長させてくれ、価値観をも変えてくれた。この貴重な経験をこれからの将来に大いに役立てていきたい。

(宮城県2年女子)

「中国で学んだこと」

私は今回、中国を訪れたのが2回目でした。前回は去年の夏に行きました。その時は、中国の方が私を喜んで迎えてくださいました。そして、東日本大震災のことをとても心配してくださって、「あなたが生きていてくれて本当に良かった」と言ってくださいました。その言葉が嬉しく、またその中国の方の温かさに触れてみたいと思い、今回の訪問に繋がりました。

私が印象に残っているのは、上海市実験学校での交流です。正直、言葉の壁や全く環境が違う中で生活しているので、何を話せばよいか不安がいっぱいありました。しかし、ワンタン作りをしたり、学校見学をしていくうちに仲良くなりました。パートナーの子とは、学校生活についてだったり、趣味や特技についてお互いたくさん話しました。別れの時、私の名前を呼んでくれて、中国語で「ポンヨ（友達）」と言ってくれました。そして、「また会おう」とも言い、とてもとても感動しました。

私たちは国境を越えて友達になることができました。彼からももらった葉は一生の宝物になりました。彼とはこれからもメールを通して交流を続けていくつもりです。日中関係は今でもたくさん問題があるのは事実ですが、彼と友達になれたのも事実です。私は彼との交流を続けて、日本と中国の溝を埋めていきたいと思います。

その他にも雑技鑑賞や万里の長城、扇子の絵付けなど、たくさんの思い出を作ることができました。人前に出ることが苦手な私が、「世界に一つだけの花」を皆の前で伴奏することができました。

私はこの訪中で中国の歴史に触れ、中国の方の温かさを感じ、友達ができ、一生忘れられない経験をすることができました。そして、世界を見ることにより、自分のビジョンも固まったような気がします。中国で学んだことを生かしながら、そのビジョンに向かって突き進んでいきたいと思っています。

(宮城県1年女子)

「中国での思い出」

今回、自分が中国に行って、もともとあった中国の印象が大きく変わり、中国のことについてたくさんのことを学びました。とても人が多くて、見るものすべてが驚きの連続でした。

まず、東京に前泊してから北京に行きました。北京では世界遺産でもある万里の長城に上りました。万里の長城は、とても大きくて長くて、人もたくさんいて、さまざまな世界の人々がいました。実際に上ってみると、とても険しくて、昔の人々はよくこのようなものを作ったと感じました。

その後の中国でのご飯はとてもたくさんの種類の中国料理がでてきました。日本で食べるご飯の量をはるかに上回る量でとても驚きました。初日は、中国の料理を残してしまったことがありましたが、日が経つとともに、すぐに中国の料理の量に慣れ、とてもたくさんの料理を食べることができて満足しています。それと中国の料理は量だけではなく、濃い味付けなので、とても自分の好みと合い、とても美味しかったです。

その後のオリンピック施設での見学では、中国の街の中を歩き、日本との道路の仕組みや交通ルールの違いについてとても驚きました。例えば、日本では赤信号なら車は止まるのが常識ですが、中国では赤信号でも車は右折など曲がるのが可能なので、日本にいる気持ちで中国の街中にいると交通事故にあってしまうので、その点はとても気を遣いました。それに中国では車がたくさんあり、曜日ごとに道路を走ってよい車が分けられていることにも驚きました。

この中国でのたくさんの思い出があった中でも一番の思い出は、中国の学校交流です。自分の中で最初は中国人にはあまり良い印象を持っていませんでしたが、実際に中国の高校生と扇子を一緒に作ったり、餃子の手作り体験をやったりなどの交流をしていくうちに、中国の高校生たちと仲良くなり、最後にはプレゼントをもらって、とても嬉しかったです。今回の訪問で中国の印象が大きく変わり、中国に行って良かったと感じました。また機会があれば、また行きたいです。

(宮城県2年男子)

「訪中を経験して」

今回の訪中では、いろいろな経験をさせていただき、本当に充実した9日間でした。私の学校からの参加者が少なかったので、最初は他の学校の人と仲良くなれるか不安でしたが、東北地方の高校や千葉県などの他の学校の人とも仲良くなることができました。

北京では、万里の長城、天安門広場、故宮、鳥の巣を見学しました。また、上海では、雑技団の鑑賞、中国の伝統芸能の鑑賞、蠟人形館の見学、中国の高校生との交流といった、普通の旅行では経験することができないようなこともたくさんありました。今まで写真や映像でしか見たことのない場所に実際に行ってみて、中国の文化に触れることができて良かったです。

この中で私が最も印象に残っているのは、中国の高校生との交流です。台風の影響で日程が変わってしまい、半日しか交流できなかったのがとても残念です。しかし、中国の高校生はこの交流会のために素晴らしいもてなしの準備をしていてくれました。そして、交流をしていくうちに、このアイドルが好きとかこの漫画が好きという話になり、中国の高校生も日本の高校生も変わらないと思いました。また、一緒に太極拳の授業を受けたり、ソーラン節を踊って交流を深めました。今まで、中国の人はあまり笑わなくて冷たいというイメージを勝手に持っていました。しかし、実際に交流してみると、それは偏見を持っていただけだと思います。交流をした人たちとは今でも心連心を通じて連絡を取り合っています。

このように貴重な体験をすることができて、中国に対してのイメージがとても良くなりました。私のようにあまり良くない印象を持っている人たちがたくさんいると思うので、この活動をもっと広めて、多くの高校生が参加できれば良いと思います。訪中期間中、中国人のガイドさんに中国語の活動を聞くなど、友達と中国語を勉強しました。私は学校で中国語の授業をとっていますが、今まで以上に中国に興味を持ちました。これからの中国語の授業ではもっと多くのことを学んで、また中国に行きたいです。これからもこのような機会があったら、積極的に参加したいと思います。

(千葉県3年女子)

「中国で感じ、考えたこと」

中国に着いて最初に思ったことは、ここが中国なの！でした。私は今回が初めてだったので実感が湧かず、とても不思議な感じでした。

今回、いろいろな場所を見て回らせてもらい、中国の歴史に触れることができました。世界遺産である万里の長城へ行った時は、班のみんなと男坂の方を上って、とても大変でしたが、景色が絶景でたくさん写真を撮ってしまいました。とても良い体験ができたと思います。

回った中で、私が一番印象に残ったのが故宮でした。中国の歴史がとても感じられる場所で、赤や青の色がとっても鮮やかでした。建物にたくさん描かれていたものがありました。最初は小さくて見えなかったけれども、近くで見ると龍でした。龍を探して歩いていると、本当にたくさんあり、とっても細かく描かれていて、見応えがありました。また、今は漢民族が8割を占めている中国ですが、一時期、別の民族の人が王様になったことがあるらしく、その証拠に一つの建物に文字が残されていました。他にも、ライオンの像が子孫繁栄などを願って置いてあったり、見応えがたくさんあって、行けてとても良かったです。

研修8日目、やっと中国の高校生との交流ができました。言葉が上手に伝わらなくて、大変だったりもしたけれど、私たち日本の学生より、自分の国を大切に思っている感じがしました。私たちは、もっと国のことに関心を持ち、考え行動することが大切だと思いました。また、もっと英語を勉強し、普段から使って身近に感じられるようにして、世界に通用するようになれば、世界と繋がれないと思いました。

研修期間で、中国のことをたくさん学び、これからの日本のためにしなければいけないことを考えさせられました。また、他校や他県の人と繋がって、新しい友ができたことがとても嬉しいです。今回の体験を大切にこれからの生活や未来に活用して、実のなるものにして

いきたいです。

(千葉県1年女子)

「中国の学生との交流について」

僕は今回の学生交流にあたり、とある目標をもって臨みました。それは、長い期間連絡の取り合える友人を作ることです。だから、僕は積極的にいろいろな人と交流を深め、ついに目標を達成しました。僕が仲良くなって今でもメールをし合っている相手は、李さんと恭くんです。

今回の旅を通じて学んだことは、日本に関して中国人が少なからず興味を持っていると思いました。なぜなら、彼らは日本の人気アイドルグループやアニメに関して日本人と同じように楽しんでます。中国という国に関してなのですが、はじめは空気が汚い、売っているものは粗悪品が多いなどの先入観が働いていました。先入観とは本当に怖いものです。食事は美味しく、空気だって別に汚くありませんでした。このことから教訓を得ました。先入観だけで判断することがどれだけの外れで、勘違いもはなはだしいことだということです。しかし、日本との違いで困ったこともあります。それはトイレです。中国の公衆トイレにはトイレットペーパーがない所があり、それについては非常に困りました。それ以外は何不自由なかったです。

中国のことだけではなく、他県の生徒から震災の悲惨さについて再認識する機会をもらいました。僕の学校から中国に行った生徒は有志で集められたのですが、学校によっては生徒会しか行けなかったところもあったので、気を引き締めて学生交流に向かいました。

これは僕が李さんから聞いたことなのですが、中国の大学生のかなりの数が日本語を習得しようとするのだと言います。私は驚きました。今、日本は中国にGDPで負けてしまい、中国人からの評価はあまり良くないと思っていました。しかし、現地のバスガイドさんも言っていたのですが、日本は綺麗でマナーがとても良いと好印象で嬉しかったです。

最後に僕にこのような機会を与えてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

(千葉県2年男子)